**旧オルト住宅**

旧オルト住宅は、西洋の建築家によって設計されたと考えられているが、1865年ごろに日本人大工の小山秀之進(1828~1898年)によって建てられた。この家は、イギリス人商人ウィリアム・ジョン・オルト(1840~1908年)とその家族のために建てられた。オルトは、1859年に長崎に着き、紅茶、植物ロウ、樟脳オイルを輸出して財を成した。1868年、長崎を離れ、一家で大阪に移住。出発後、メソジスト女学校やアメリカ領事館など多くの手を経て、1903年にリンガー家が取得した。第二次世界大戦が始まるまではリンガー家が所有しており、1943年に川波工業が取得しました。戦後長らく放置されていたが、1970年に長崎市が取得し、1972年に国の重要文化財に指定された。

その家のデザインは和洋折衷だ。ベランダやポルティコの周りのトスカーナの柱は煙突と同様に明らかに西洋風だが、建物は日本の木枠構造で、屋根は伝統的な粘土瓦で覆われている。

--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

|  |  |
| --- | --- |
| 採用番号NO： | 023-008 |